

【第7回】日越共同イニシアティブ・メルマガ仕立て

皆様こんにちは。日本大使館の下村です。

本日は、WT4-3（物流・通関・通信）について、現在の議論を御紹介させていただきます。リーダーは、郵船ロジスティクス インターナショナル ベトナム、ハノイ支店の磯部支店長に務めていただいています。

（参考）日越共同イニシアティブのポータルサイトができました！こちらのページより、フェーズ1から現在に至るまでの全ての情報を御覧いただけます。また、このメルマガの内容も、下記サイトから御覧いただけますので、御活用ください。

<http://www.vn.emb-japan.go.jp/jp/economic/Joint-Intiative-index.html>

【背景】

このWTは、物流・通関・通信の課題について、過去からの継続案件や、商工会から要望のあった案件を取り上げています。ここで、通信と一緒に扱っている点がこのWTのミソです。

皆さんの中で、事業活動を行う上で、特に通関の問題に関わったことの無い方は少ないのではないのでしょうか。企業の方からは、書類や署名の多さや、担当官による運用の違いに伴う混乱などの声が聞こえてきます。

これを少しでも簡素化・透明化することができれば、我々は一步前進することができます。また、もし、日本で用いられているような電子通関システムがこの国に導入されれば、書類は大幅に削減できるとともに、担当官が介入する余地も減ります。

こうした観点から、昨年、日越両国政府は、NACCS（Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System：NACCS）と呼ばれる日本の電子通関システムをベトナムに供与する事に合意しました。現在、この導入に向けた具体的な検討が進められています。

ここで問題となるのが通信です。せっかく優れた電子通関システムを導入しても、通信インフラが脆弱だと宝の持ち腐れとなってしまいます。

このため、このWTで通信と一緒に扱い、具体的な事例に基づいた課題を議論することにより、IT化が、ベトナムのビジネス環境整備にとって如何に重要であるかを明らかにすることとしました。

【行動計画の概要】

第一に、「①航空貨物取扱いの適正化」です。航空貨物輸送に際して、ラフハンドリングによる貨物の損傷や濡れ損など、様々なトラブルが生じます。これを減らすよう空港当局に求めたいところですが、「がんばります。」という口先の回答以上に踏み込む事はなかなか困難です。損傷件数が明らかでなく、そもそもどこまでを損傷と考えるかの水準も、両国の間で考え方に違いがあると思います。

そこで、まずは、空港当局側に問題が起こった際の特定窓口を設置してもらい、そこに情報が蓄積される仕組みを整えてもらうことにしました。こうした具体的な事例に基づき、改善策を練っていく予定です。

第二に、「②通関手続きの最適化」です。電子通関システムがベトナム全土に設置されるのは、いつになるか分かりません。書類や署名の削減など、今からでもできる改善策はあるはずです。また、ASEAN全体としては、通関手続を含む貿易関係書式の標準化・共通化、電子化を推進することで、ASEAN域内での貿易円滑化を目指しています（ASEANシングル・ウィンドウ）。こうした動きも睨みつつ、一歩ずつでも改善を図っていきたいと考えています。なお、この取組には、JICAの専門家が積極的に関与して下さっていますので、JICAコラムも御参照ください。

第三に、「③通信関連の課題」です。背景で述べたとおり、NACCS導入という具体的な事例に基づき、ベトナムの通信を含むITインフラの課題を抽出、改善を求めていく予定です。

【現在の取組の状況】

いずれの論点も、ベトナム側に運用改善を求めるものであり、現状は、意見交換や働きかけを継続しているという段階ですが、①の航空貨物取扱いの特定窓口については既に実現いたしました。また、通関手続最適化についても、ベトナム税関と日系企業との対話会が実施され、参加企業からは様々な改善要望が提出されました。

このように、特定窓口や対話会の設定により、具体的な問題がレジスターされていくことが、今後、我々が改善の必要性を訴えるパワーとなります。現在は、こうした問題事例を集めつつ、対話会で越側から得られた回答を精査、どのように制度や運用に反映されているかをチェックしているところです。

NACCSが本格運用されるまでは、革新的な改善は見られないかも知れませんが、一つ一つの課題をつぶしていく事により、「振り返ってみると少しは良くなっている」という状況となっていることを期待しています。

【リーダーより一言】

WT4-3(物流・通関・通信)のリーダーをさせて頂いております、郵船ロジスティクスインターナショナルベトナムの磯部です。前回の第3フェーズから WT4-3 メンバーの一人でしたが、本年4月から、前任の壺岐さん(ドラゴンロジスティクス)の後を受けて、リーダーを務めさせて頂きたくことになりました。

輸出入に関わる物流・通関の課題は、皆様の事業活動の中では、非常に切実なものとして日々直面されていると思います。「空港貨物ターミナルでの想定外の貨物ダメージ」「個々の事象において、税関の見解が一定しない」「突然手続きが変更される。」等々、どうして!?! と思われることが多いですね。最近では、「税関システムの不具合で輸出入許可が遅れた。」という事にも直面された方も多いと思います。

WT4-3 では、個別事案の集積⇒ベトナム側への改善要請という流れをベースに少しでも改善を図るよう取り組んでおります。また、「通信」の課題では NACCS のベトナムへの導入に合わせて、税関システムの通信安定性・レスポンススピードの向上も重要課題として取り上げております。

これらの改善には、皆様の“声”が頼りです。物流・通関、それに関わる通信の部分で、ご要望等がございましたら、遠慮無くご意見をお寄せ下さい。税関との対話会、空港ターミナルとの継続協議等を通じ、少しでも皆様の“声”にお応え出来るよう 具体事案の改善・解決に努力して参る所存です。宜しく願い申し上げます。

【JICA ベトナムより一言】

今後ベトナムが ASEAN の中で如何に競争力を発揮していくかは、運輸交通インフラ等のハード面の整備のみならず、通関に代表されるソフトインフラをどうレベルアップしていくか、にも大きく依存しています。既存の通関システムはデータ投入時のエラー発生、トラブル解決に長時間を要す、処理速度が遅い等の課題があると指摘されてきました。ベトナム政府は我が国の輸出入・港湾関連情報処理システム (Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System : NACCS) 及び通関情報総合判定システム (Customs Intelligence Base System : CIS) の技術を活用した通関電子化及び National Single Window : NSW 導入を要請し、この 2012 年 3 月に「税関近代化のための通関電子化及びナショナル・シングルウィンドウ導入計画」無償資金協力プロジェクトの交換公文が両国政府間で結ばれました。

同プロジェクトは、NACCS 及び CIS 技術を活用した電子通関システムを構築することを目的として、①ソフトウェア (電子申告業務 (NSW、ASEAN SW 参加機能を含む)、電子積荷目録業務、電子インボイス業務、電子原産地証明書業務、電

子納税業務、審査基準管理業務、輸出入者管理業務、貨物通関・引取業務等)、②機材、③システム運転に関連する処理等の設計・開発、総合運転試験、税関職員を対象としたシステム操作研修、保守要員の支援、④コンサルティング・サービス、⑤機材設計監理等は無償にて供与するものです。プロジェクトは2012年3月に開始され2014年2月までを予定して実施されます。この無償資金協力は、導入された電子通関システムが適切に稼動するために、必要な支援を行なう技術協力「通関電子化促進プロジェクト」と一体的に行なわれます。同プロジェクトのチーフアドバイザーには、2012年9月までの予定で実施されている「税関行政官能力向上のための研修制度強化プロジェクト」のチーフアドバイザーである櫻井専門家（財務省関税局から派遣）が着任される予定です。

メコン地域の物流網のハード面でのレベルアップについては、JICAはベトナムが低所得国であった90年代後半からダナン港～ハイバントンネル～国道9号線（ラオス）～第2メコン架橋と東西経済回廊の主要部分の整備を支援してきました。ベトナムが中所得国入りした今も、ノイバイ空港やタンソンニャット空港の新ターミナル整備、カイメップ・チーバイ港やラクフェン港等の深海港整備、南北通信のバックボーンとなる海底ケーブル整備、等々を進めています。今後もこういうハイレベルなインフラ整備とともに、ソフトインフラの整備にもプライオリティを置くベトナム政府を支援していく予定です。